

教育センターだより

令和元年度 第2号

黒部市教育センター

Brave Blossoms (2015ラグビー日本代表) に学ぶ

黒部市立桜井小学校 校長 茶 谷 渉

先日、9月20日に開幕する「ラグビーワールドカップ2019」へ向けて調整を進めている日本代表の壮行試合の対南アフリカ戦の放送がありました。南アフリカと言えば2015ワールドカップで、劇的な逆転で日本が勝利を収めた試合が伝説となっています。今回は、7-41と残念な結果でしたが、選手たちの活躍を観戦し楽しい時間を過ごしました。



2015日本代表は、南アフリカに勝利し、予選リーグ3勝という大活躍を見せました。当時、私は職員室だよりを作成しており、日本代表の活躍に合わせ、個人的な感想や思いを先生方に読んでいただいていたいました。そのことを思い起こし、当時の記事を多少修正し紹介します。

【One for All, All for One】

「キックを決めることができるのもみんなが機会をくれるおかげです。」五郎丸選手の言葉です。五郎丸選手のキックやルーティンに注目が集まっていますが、チームの勝利のために確実にゴールを決める技術を習得するまでに、とてつもない努力があったことでしょう。チームもゴールを狙える位置でのキックを全幅の信頼で五郎丸選手に任せます。予選リーグ3勝の快挙は、チームの目当てを個人個人が理解し、みんなで共有し、信頼関係のもと、実践しているからこそ実現できたものだと思います。

【キャプテンシー】

リーチ・マイケル キャプテンは、南アフリカ戦勝利後のインタビューで、「南アフリカが、とても焦っていることが伝わってきた。最後（勝利の逆転トライ）に、ペナルティーゴールではなくスクラムを選んだのは、相手が1人少なかったことと、勝ちにいくという気持ちから。今までやってきたことを信じてプレーした。」と語っています。

ラグビーの試合では、監督は観客席におり、試合を現場で方向付けるのは「キャプテン」です。監督は、選手と試合前に作戦・方向性について十分なミーティング・練習を行い、試合をキャプテンや選手に任せます。事前の作戦通りにいかないことも多いと思います。そこでキャプテンの判断が大切になるのです。ほぼ確実な五郎丸選手のペナルティーゴールで同点にするか、逆転を狙うスクラムか、という選択でしたが、このコメントからは、何の迷いもありません。南アフリカと同点でも快挙なのですが…。チームや試合の流れ等の状況を的確に判断し、方向性を決断する素晴らしい「リーダーシップ」です。見習いたいものです。

今回のラグビーワールドカップでもたくさんの感動があるかと思います。一つでも二つでも得るものがあると嬉しいです。どんな結果になっているのでしょうか。楽しみです。



市内小中学校に着任された新しい先生方を紹介します

「1学期を終えて」

たかせ小学校 竹内 史夏

素敵なお歌を元気いっぱい歌う、「たかせの子」と出会って数か月が経ちました。振り返ると1年2組19名の担任として、日々奮闘した1学期でした。毎日反省することばかりでしたが、周りの先生方からの経験を踏まえた的確な助言や、小さな努力や成長を見付け、伝えてくださる励ましのお陰で、楽しく前向きに過ごすことができました。子供たちの一度きりの貴重な一瞬一瞬を共に過ごすことができ、教師という職に就けたことを、今、改めて誇りに思っています。2学期も「やってみよう!」という前向きな姿勢で子供たちと楽しく過ごしていきたいと思えます。

「教員人生の始まり」

村椿小学校 山崎 優菜

4月に初めて子供たちを見た時、これから始まる教員生活に期待の気持ちが高まりました。しかし、周囲の先生方が仕事を進められる中、教員の仕事がやる気だけでは務まらないことにも気付きました。先生方それぞれに、すべきことやしたいことがあり、それに向かって頑張っておられることも分かってきました。私も教員としての基礎を早く身に付け、自分のよさを生かした指導ができるよう自己研鑽に努めたいと思えます。

「子供たちと一緒に」

中央小学校 小川 陽平

4月に初めて教壇に立ってから約半年が経ちました。子供たちの笑顔や周りの先生方に支えられ、教員として充実した毎日を過ごしています。

子供たちに笑顔で関わること、休み時間には子供たちと一緒に遊ぶこと等、子供たちとの良好な関係づくりを大切に、毎日を過ごしています。児童一人ひとりのよさや頑張りやたくさん見付けながら、子供達の成長を見守り、支えることができる教員を目指したいです。そして、私自身も子供たちと一緒に日々成長できるように努めていきます。

「一人ひとりと向き合って」

中央小学校 吉江 純菜

小学5年生から目指していた教師になれた喜びを噛み締めながら、行事に授業にと日々奮闘しています。目まぐるしく過ぎていく毎日も、子供たちの笑顔と先生方のお力添えのお陰で、充実したものになっています。これからも、子供の可能性を信じて、一人ひとりとしっかり向き合い、やがて一人の人間として社会に出て行くことを見据えながら、毎日の子供たちの歩みを見守っていきたくたいです。

「養護教諭としてできること」

荻生小学校 藤井 春菜

私が高校生だった頃、保健室の先生との関わりをきっかけに、養護教諭の道を選びました。子供たちが学校の中で、悩んだり悲しいと感じたりしたときに、「保健室に行けばほっとする」と思ってもらえる養護教諭を目指しています。また、1学期を終えて、一人で解決しようとするのではなく、教職員や保護者の方々と協力することが大切だと感じています。養護教諭として何ができるかを常に考えながら、子供たちの心と体を支えていきたいと思えます。

「日々 研鑽」

若栗小学校 清水 立

私が働き始めてから約半年が経ちました。1学期間を通して、私一人では対応できないこと、こなせないことがとても多く、他の先生方から大変助けて頂いているということを実感しました。「できること」を少しでも増やせるよう、日々、自己研鑽に励み、他の先生方から教員としての様々な術を吸収していきたいと思えます。2学期も一生懸命がんばります。

「笑顔の力」

宇奈月小学校 笹原 葉月

宇奈月小学校に勤務してあっという間に約半年が経ちました。毎日、周りの先生方に助けていただき、元気いっぱいの子供たちからパワーをもらっています。ある日、クラスの子供が、「先生がいつも笑顔だから、僕も自然と笑顔になれる」と言ってくれました。その言葉を聞いて、嬉しい気持ちとともに、教師の言動には大きな責任があることを感じました。

これからも、子供たちの明るい笑顔が見られるように、毎日笑顔で絶やさない教師でありたいです。

「英語が話せるなら、楽しいじゃないか」

鷹施中学校 舟川 直美

鷹施中学校に赴任し、周りの先生方や生徒に助けられながら1学期が終わりました。英会話科の講師をしていた私が授業で驚いたのは、英会話科で培われた話す力と聞く力の高さです。しかし、その一方で書く力と読む力の2技能に苦手意識をもっている生徒が少なくない現状があります。英語科と英会話科はつながっています。会話が楽しいなら、英語も楽しくなるはず。これからもコミュニケーション力の向上を目標に、4技能を伸ばす授業を進めていきたいです。

「1学期を終えて」

高志野中学校 近堂 奈津子

高志野中学校に赴任し、あっという間に数ヶ月が経ちました。初めは分からないことが多く不安でいっぱいでしたが、周りの先生方や生徒たちの支えのおかげで充実した毎日を送っています。判断に迷う場面もありますが、日々成長していく生徒を見るのが何よりも嬉しく、この仕事について良かったと思える瞬間でもあります。2学期は、より生徒の立場で考え、行動し、生徒と共に自分自身も自立した教員として成長できるように頑張っていきたいと思います。

「教員として働くこと」

桜井中学校 片桐 遼平

新規採用され約半年が過ぎました。忙しくも充実した日々を生徒と共に過ごすなかで、教員として働くことのやりがいを実感しています。それと同時に授業や部活動指導、生徒指導等、様々な面で自身の至らなさを強く感じることも多くありました。生徒に信頼され、成長を促すことができる教員を目指して、生徒理解に努め、教員としても成長していきたいです。

「1学期を終えて」

桜井中学校 鈴木 雄大

桜井中学校に着任し、早くも半年が過ぎようとしています。新しいことばかりの毎日に少しずつ慣れてきた自分がある一方で、生徒達の成長も想像より大きいものだと感じています。生徒との関わり合いを通して、教師としての資質を学んでいきたいです。

2学期からの新しい英会話科の先生方を紹介します！



アレキサンダー フラー Alexander Fuller 先生

Hello everyone! My name is Xander Fuller. I come from the state of Arkansas, in the United States. I like videogames, reading, and listening to pop music. I love languages! I can speak English, French, German, and some Chinese and Dutch. I really want to improve my Japanese, so I will be practicing a lot of kanji!

Yoroshiku onegaishimasu!

みなさんこんにちは!私の名前はザンダー・フラーです。アメリカ合衆国のアーカンソー州から来ました。ビデオゲームや読書、ポップ・ミュージックを聴くことが好きです。

また、言語が大好きで、英語、フランス語、ドイツ語、少しの中国語とオランダ語を話すことができます。日本語を上達させたいので、多くの漢字を練習していきたいです。

よろしくお願いします!



「英会話科の授業を通して」

本田 悦人 先生

みなさん、こんにちは。本田です。黒部市の学校に勤務できてうれしいです。長年、高校教師をしていました。趣味は韓国ドラマや映画を観ることです。市内で見かけられたら声をかけてください。よろしくお願いします。



「英会話科の授業を通して」

杉原 栄子 先生

みなさん、こんにちは。今年度宇奈月中学校に英会話科講師として勤めることになりました。以前、黒部市の小学校で講師をしていた時にも感じていたことですが、今も授業に取り組む子供たちは、英会話だからといって構えるわけでもなく他教科と同じように、自然にそして意欲的に授業に取り組んでいます。その姿が印象的です。今まで学んできたことを生かしてさらに英語を好きになってくれればと思っています。





令和元年度 英語サマーキャンプ



8月19日(月)から2泊3日で、黒部市ふれあい交流館『あこや~の』にて英語サマーキャンプを行いました。小学5・6年生37名と中学1年生21名が参加し、昨年度と同様に50名を超える大人数での活動となりました。

朝の受付からALTや英会話講師が出迎え、参加した子供たちは名前やグループなどについて早速英語でやり取りしました。3日間の活動はALTや英会話講師だけでなく、補助役として、桜井高校英会話部の生徒も参加して進められました。

初日のアイスブレイキングやスポーツタイムを通して、参加した子供たちとALT、子供たち同士も次第に打ち解け、会話も弾んでいきました。

また、ティータイム(英語創作劇の発表のための準備活動)やスポーツタイムを通じて、自分のアイデアや感想を英語で和やかに伝え合う姿が見られました。

2日目のバーベキューは、あいにくの雨となりましたが、ホットドッグや焼きバナナなど、外国らしいメニューを楽しみながら、生活の中で使われる英語に触れることができました。

最終日のプレゼンテーション(劇の発表)では、各グループで考えたシナリオをもとに子供たちとALT、英会話講師の方々協力し、アイデアあふれる英語劇を発表しました。



バーベキュー準備中



プレゼンテーションの様子

今年度の夏季研修会を終えて…

今年度も夏季休業中に、魚津地区教育センター協議会による3回の講演会を含め、合計10回の研修が行われました。研修会に出席された先生方の人数を合わせると、小学校300名、中学校125名となりました。

また、英会話科指導者研修会や教科実技研修会では、英会話科カリキュラム部員の先生方や理科学研究員の先生方にもご指導いただきました。ご協力ありがとうございました。



【情報教育実技研修会】

○7月29日(月)〈小学校14名、中学校9名参加〉

富山大学大学院 教職実践開発研究科より長谷川春生先生をお招きし、ICTの活用について学びました。

桜井中学校のタブレット型コンピュータを理科室で使い、Wi-Fi環境の中でどのような取り組みが可能かを体験的に学びました。

アプリを使って板書や提示の仕方をより簡便にわかりやすくできることを体験し、これからの自分の授業にどのように生かしていくかについて考えました。

また、長谷川先生より「ロイロノート・スクール」の使い方について教えていただいた後、タブレットの機動性を生かして一人一人が桜井中学校の新校舎を紹介するプレゼンテーションを作りました。発表は6グループそれぞれがWi-Fiにつながったプロジェクターで行ったり、全体で行ったりと、新しく導入された機材や環境を使って実践しました。

参加された先生方からは「今後の授業にすぐに生かしてみたい」「新しい機材や環境が整備されるのが楽しみ」といった前向きな意見が聞かれました。



グループ毎にWi-Fiでタブレットからプロジェクターへ

【体力・運動能力向上研修会】

○7月30日（火）〈小学校29名、中学校4名参加〉

「スタジオじゆう」の大崎 亮 先生をお招きし、体育実技研修会を行いました。昨年度までの研修会における「専門家による技術指導を受けたい」という多くの声を受け、今年度は黒部市総合体育センターにて、器械運動、球技、短距離走の実技指導を行いました。

ウォーミングアップを兼ねた器械運動の内容では、マット運動や跳び箱のポイントを確認することができました。子供たちがどんな場面で恐怖心をもったり諦めたりしてしまうのかを大崎先生から実演を交えて紹介されると、多くの先生方が納得していました。

また、バスケットボールを使ったボールハンドリングやコーディネーショントレーニングでは、ボールと触れ合いながら仲間と一緒に技能を高め合う楽しさを実感することができました。

参加された先生方からは「子供たちへの段階的な指導の大切さが実感できた」「体育の授業が嫌いにならないような指導を大切にしたい」といった、今後の授業における指針となる意見が聞かれました。



後転のポイントを確認

【教科実技研修会】

○8月2日（金）〈小学校19名、中学校6名参加〉

理科研究委員の先生方をリーダーとして、理科の授業における安全な指導のあり方や次年度から始まるプログラミング学習について研修を行いました。

会場はコンピュータの使いやすい桜井中学校の理科室をお借りしました。

理科室に限らず、特別教室を利用する場合の指導のポイントや化学領域の実験におけるアンモニア発生時の対応等についてグループで実演しながら進めることができました。

プログラミング学習についての研修では、次年度から活用できる教材を実際に使いながら、プログラミングを行いました。

タブレット型コンピュータがWi-Fiでプロジェクターとつながり、さらに教材とBluetoothでつながっている環境で、先生方が楽しそうに夢中でプログラミングに取り組む姿が大変印象的でした。グループ発表では車の安全機能を模倣したり、人の動きに反応して写真を撮ったりするプログラミングが紹介されました。

参加された先生方からは「まずは教師自身が楽しんで実験やプログラミングに取り組みたい」「教材を準備したり、情報環境を整えたりするために、熱意をもって頑張りたい」といった、来年に向けた意気込みが感じられる意見が聞かれました。



グループ毎にプログラミング

【学力向上研修会】

○8月5日（月）〈小学校51名、中学校18名参加〉

高知県の町教育特使 菊池省三先生を講師としてお招きし、午前中は師範授業、午後からはご講演をいただくという2部構成で研修会を行いました。

菊池先生の授業は、宇奈月小学校の6年1組と6年2組で行われました。子供たちは事前に菊池先生について記録映像を通して知るとともに、菊池先生に一人一人質問を送っていましたが、当日の授業が初対面でした。

授業が始まるとすぐに一人一人に対して温かい言葉がけを 菊池省三先生による師範授業
されながら展開が進み、子供たちは活発な中にも、規律ある態度で参加していました。

(次ページへ続く) ↗



菊池省三先生による師範授業

参観された先生方も菊池先生の指導の様子を実際に見ることができ、その児童観や指導観を垣間見る貴重な機会となりました。

午後の講演では、学力の3要素に基づく授業観や教科別の授業作りに関する資料をいただくと同時に、教師としての「感情労働」の大切さや日頃から観察力を磨いていくことの大切さをユーモアたっぷりに教えていただきました。

参加された先生方からは「授業について菊池先生と一緒に振り返る時間がほしい」「両方の授業をもっとしっかりと見たかった」といった菊池先生からもっと学びたいという熱い思いが感じられる意見が聞かれました。

【英会話科指導者研修会】

○8月6日（火）、8月7日（水）〈小学校110名、中学校4名参加〉

富山大学教職大学院教授 岡崎浩幸先生を講師としてお迎えし、英会話科カリキュラム部員をリーダーとして実践的な研修会を行いました。また、今回はALTやJAT、JETの方々も協力し、各グループでアドバイスをしてもらいました。

8月6日は中央小学校、8月7日は宇奈月小学校をお借りし、担当学年ごとに教室に分かれてグループで研修を行いました。英会話科カリキュラム部員の進行のもと、英語による自己紹介を行った後、年間指導計画に記載されているクラスルームイングリッシュを丁寧に練習しました。また、進行を務めるカリキュラム部員同士の即興的なスマールトークをもとにグループでスマールトークやプレゼンテーションを考え、発表しました。最後に、今年度行われる公開授業の内容について協議しました。



参加者による模擬授業

参加された先生方からは「英語を使う時間がたくさん設定されていてよかった」「子供たちと英語を通してもっと理解し合いたい」といった小学校英語で担任の先生方が大切にしていけるべきことが伝わってくる意見が聞かれました。

【特別支援教育研修会】

○8月23日（金）〈小学校12名、中学校6名参加〉

富山県立にいかわ総合支援学校 保里良隆先生、堀川美幸先生を講師として、日頃の学校生活の中で気になる児童生徒への対応について研修を行いました。児童生徒の困り感に気付くための視点や特性のある児童生徒に対してより適切な支援となるために先生方が留意すべきことなどについて全体で理解を深めました。その後、グループ毎に事例を基にした支援のあり方について検討しました。これまで曖昧だった視点が明確になることにより、適切な支援のあり方がより具体的になっていく過程を実際に体験しながら学ぶことができました。



グループ毎に支援方法の考案

参加された先生方からは「児童生徒の見立てについて具体的な指針が明確になってよかった」「教室の全ての児童生徒に対して適応できる配慮もあるため、すぐにでも実践していきたい」といった有用感のある内容であったことが分かる意見が多く聞かれました。

今年度も夏期休業中の研修会にご参加いただきありがとうございました。
各研修会では、研修会の効果について事後アンケートを行っておりますが、次年度の研修会に向けてご意見ご希望がありましたら、ぜひ教育センターへご連絡ください。





市・内小中学校の特色ある取組を紹介します

○『豊かな字奈月っ子を育てるために』 ～ 読書活動の推進 ～

黒部市立字奈月小学校

明るく開放的な図書室の入口、入りやすく使いやすい図書室のレイアウト等、本校の図書室のつくりはすばらしい。平成18年の設立当初より、図書室に多くの児童が集まるように様々な読書活動の取組が行われてきた。昨年度と今年度はアクションプランに位置付け、PDCAサイクルで読書活動を推進している。

1 図書室の学習・情報センターとしての機能を高めるために

学校図書館年間活用計画を基に、毎月、教科等の学習に即して、担任が主体となって読み聞かせを計画する。司書教諭は、それを取りまとめ、学校司書に読み聞かせやブックトークを依頼している。

また、併設されたパソコン室の扉を開けて、図書とインターネットそれぞれのよさを生かした学習に取り組んでいる。図書室には調べ学習時に便利な図書一覧ファイルが整備され、児童はそれを手がかりに本や資料で調べたり、さらに詳しく知りたいことをネットで検索したりしている。

2 児童が利用したくなる図書室にするために

学期に一度読書月間を設けている。図書委員と学校司書が連携して、図書ビンゴや調べ学習ゲーム等楽しいイベントを計画し、児童が様々な種類の本に触れるきっかけづくりをしている。また、児童が本を手にとってみたくなるように、図書委員による新刊図書のコメントや教職員お薦めの本の紹介等を本と一緒に掲示している。

3 いつでもどこでも読書ができる環境にするために

本校には、リラックスしながら読書を楽しめる図書ラウンジがある。PTAからの寄贈図書コーナーには、新刊図書が配置され、休み時間や電車の待ち時間には本を読む児童で賑わっている。新聞の閲覧コーナーもあり、登校時に立ち寄り、新聞を読んでいる児童も多い。

4 みんなで本を読む楽しさを共有するために

朝の読書タイムや休み時間を利用して、集団読書に取り組んでいる。学級全体で同じ本を読み感想を交流したり、図書室で読書会を開催し、読書会ボードを作成し掲示したりしている。

5 家庭・地域ぐるみで読書活動に取り組むために

地域ボランティア「お話たんぽぽ」の協力を得て、読み聞かせの活動を教育課程に位置付けている。また、読書月間や長期休業には、「親子読書」に取り組んでいる。学校の設立以来、学校と家庭、地域ぐるみによる読書活動が継承されている。

図書室の利用人数が昨年より増加している。特に、高学年の多くの児童が自主的に本を借りているという成果がみられた。今後も全職員で日常的に読書に親しむ態度の育成に努めていきたい。

* * * * *

5月の読み聞かせ 希望調査

5月から、大上戸先生による読み聞かせが始まります。本や目録について、希望する欄に学年クラス名を記入し、読んでほしい本の題名やジャンル等があれば記入して回収してください。

曜日	曜日	2限(9:25-10:10)	3限(10:40-11:25)	4限(11:30-12:15)	備考
5月10日	金	5-1	2-1		
14日	火		1-1		
15日	水	2-1			たんぽぽ1年
17日	金	4-1			連休
21日	火	4-2	1-1		連休予定日
22日	水	6-1	6-2		たんぽぽ2年
24日	金	3-1	(2-1)		
29日	水				たんぽぽ3年

※1・2年生：2回、3・4・5・6年生：1回

読み聞かせについての要望等

(例)	1.項目の教科書に出てくる本のブックトーク 2.ながかりおぼえの本
1の1	最近人気の作家の本(文庫少年向け)
2の1	野菜の本、たんぽぽの成長関連
3の1	ないた赤おに(音楽)
4の1	おぼえ
4の2	おぼえ
5の1	なまえつけてよ(国語の教科書)
6の1	密読陣出についてのブックトーク
6の2	密読陣出についてのブックトーク

*特に星がなければ、おまかせと記入して下さい。



○『主体的を高める活動に向けての取組』

黒部市立字奈月中学校

1 生徒の実態

生徒は明るく素直で、責任感が強く、与えられた自分の役割をきちんと果たすことができる。しかし、自ら課題を見付け、主体的に活動する意欲にやや欠けるところがある。

2 育てたい生徒像

- (1) 知性をみがく生徒 (知)
- (2) 豊かな心で助け合う生徒(徳)
- (3) たくましく実践する生徒 (体)

3 本年度の重点目標

- (1) 生徒と共有する時間を大切に、生徒一人一人のよさや可能性を引き出し、自己指導能力を身に付けた生徒を育てる。
- (2) 「学び」が好きになる「分かる・できる授業」の推進に向けた授業改善を行う。
- (3) 発達の段階に応じた「いのちの授業」を実践し、社会の中での自分の存在価値を見いだすとともに、互いの人権を尊重しあう態度の育成に努める。
- (4) 自分の生活習慣を見直し、心身ともに健康で安全な生活を送る生徒を育てる。

4 取組

(1) <知>への取組

① 週末課題

毎週木曜日に全学年、週末課題を印刷し生徒に配布している。木曜日に提示することで生徒が計画的に取り組めるよう工夫している。

② 学習形態の工夫

各教科でペア学習やグループ学習を取り入れることで自分の考えを相手に伝え、学び合いを促すよう努めている。



(2) <徳>の取組

① 委員会活動

ア 挨拶運動(執行部、代議員、生活・広報委員会)

「学校に挨拶の花を咲かせよう」をスローガンに自分たちで当番を決めて毎朝、生徒玄関前で挨拶運動を実施している。最近では授業の終始の「挨拶の仕方」について集会をもち、全校生徒に呼びかけた。

イ 人権集会の企画・運営(生活・広報委員会)

生徒のアンケート結果を基に、委員会で話し合う課題を見付け全校生徒に提示した。集会では、課題についてどのように解決していけばよいか生徒から意見を聞き、人権意識の高揚を図った。



② 「いのちの授業」

こうちウイメンズクリニックの高地圭子医院長を招聘し、「生と性について考える性行動と責任」というテーマで講演会を開催した。自分の体や命を大切にすることだけでなく、お互いを理解し合うことの大切さを実感していた。

(3) <体>の取組

① 家庭での生活改善

生活習慣チェックを定期的に行い、自分の生活を振り返り、改善しようという意識の向上に努めている。また、学校保健委員会では、3年間続けて生活改善に向けての講演を実施している。

② 食育教育

藤原栄養教諭の指導のもと「一日に何をどれだけ食べたらよいか」というテーマで、学習を進めた。実際に手ばかりで一日分の野菜を持ってみたり、一食分の調理された食事を見てみたりしながら、自分の健康を守り成長するための食事のあり方を学んだ。



教育センターだよりの作成にあたり、原稿をお寄せいただいた学校様、先生方、ご協力ありがとうございました。

市内の小中学校では、PCや大版プリンター、プロジェクターが新しくなっています。教育センターも新しい環境で仕事が進められています。今回導入されたプロジェクターはWi-Fiにつながる仕組みがあります(要アダプタ)。ぜひ活用を考えていきたいものです。

